

リアルとデジタル で都市を体感せよ

～地元小学校で都市構造可視化ツールを用いた
まちづくり出前授業の実施～



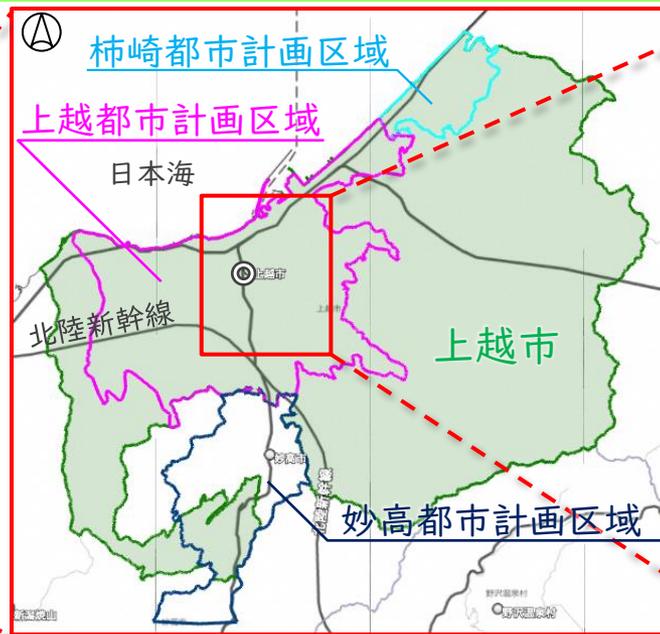
新潟県 上越市 都市整備課

1. 出前授業のきっかけ

位置図



補注：地理院地図を使用



- 平成29年3月に「上越市立地適正化計画」を策定
 - 計画の目標を達成するため市独自で定めた誘導重点区域において、
 - 「まちなか居住推進事業」に着手
 - 行政と住民が協働でまちなか居住推進に向けたまちづくりに取り組んでいる
- まちの次世代を担う小学生に、まちなかのことを知ってもらうため

2.授業のねらい

リアル（建物や人）とデジタル（可視化ツール）を組み合わせることにより、学びの質の向上を図る

1.教室授業編（デジタル（可視化ツール））

- (1).人口減少について学ぶ
- (2). 居住地の推移について学ぶ
- (3). 3Dマウスを操作して自分の家探し

2.まちあるき編（リアル（建物や人））

- (1).大火が多かったまちの知恵を学ぶ
- (2).まちの人と会う、お話を聞く
- (3). 砂丘を感じるまちあるき（リアル×デジタル）

3. 教室授業編①



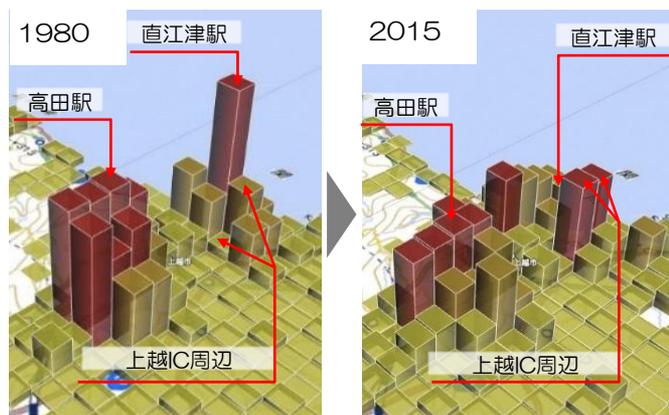
数字クイズで上越市のいいところを紹介

90/1724 ⇒ 新幹線の駅がある市町村

3 / 1724 ⇒ 日本三大夜桜がある市町村

100/1724 ⇒ 日本100名城がある市町村

133/1724 ⇒ 水族館がある市町村



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

(1).人口減少を可視化ツールで解説

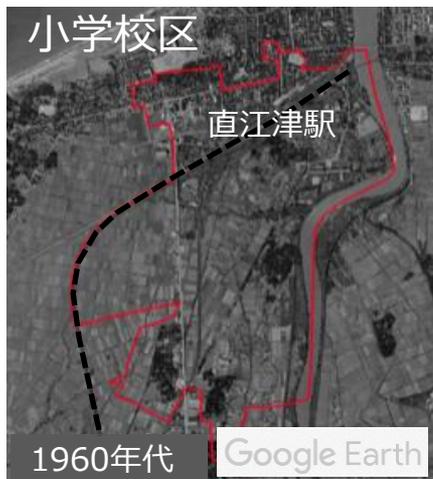
1980年：約22万人

中心市街地に人口が集中

2015年：約20万人

中心市街地の人口が**減**、郊外人口が**増**

4.教室授業編②



補注：都市構造可視化計画



補注：都市構造可視化計画

(2).人口減少を可視化ツールで解説

- 駅より北側が直江津の旧市街地
- 駅より南側は1960年代以降にできた住宅地
- 二枚の航空写真から、居住地の推移（拡大）を説明



(3). 3Dマウスで自分の家を探そう

- 3Dマウスを操作しながら、自分の家を探してもらった。昔から家がある人、昔は田んぼだった人。
- この時間帯が一番盛り上がる。

5.まちあるき編①



(1).大火が多かったまちの知恵

- 築140の歴史ある建物を、事務所に活用した話を聞く
- 大火が多かったまちであり、木造の建物の中に、火に強い土蔵を持つ家がこの地区に多く残る。
- この中には、大切なものを保管したり、リビングとして使われていたとのこと。

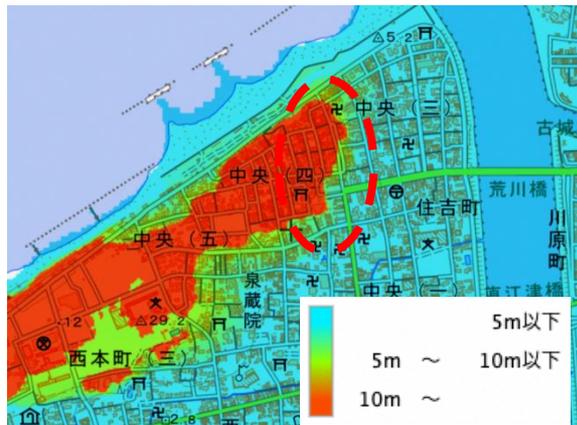


(2)まちの人と会う、お話を聞く

- まちの歴史に詳しいAさんから、まちの歴史や土蔵造りの文化財の説明を聞きました。
- 商店街に詳しいBさんから、商店街の昔の賑わいの話を聞きました。

6.まちあるき編②

(3).砂丘を感じるまちあるき（歩いて高低差を体感）



なんで道が二段なの??

砂丘の際は土地が斜めだから、道が二段になっています。

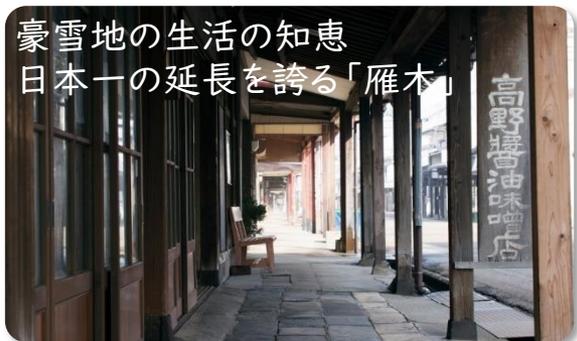


まとめ

- まちづくり授業に可視化ツールを組み合わせることにより、多くの気づきや発見を促すことができた。
- 今後は、ウォーカブル施策検討への応用も期待できると感じた。

新潟県上越市

都市の紹介



都市交流会議2022